

2005年福岡県北西沖の地震(M7.0)の被害痕跡調査 Investigation of damage trace of the 2005 Fukuoka Earthquake

山田 伸之^{1*}, 姫野優子¹

Nobuyuki Yamada^{1*}, Yuko Himeno¹

¹ 福岡教育大学

¹Fukuoka University of Education

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の大災害ののち、津波災害を伝える祖先の教えを刻んだ石碑などの存在が東北地方をはじめ、各地でクローズアップされた。津波災害に限らず、こうした石碑などの過去の貴重な教えや災害の履歴は、時とともに消えてしまう、もしくは、忘れ去られてしまう恐れがある。さらにこうしたものの場所や内容を知らなければ過去の教訓が伝わることはない。従って、その地域ごとの災害史をひもとき、災害史や災害跡を「掘り起こす+残す+伝える」ことで、一人ひとりが防災への意識を高める機会となる防災教育へと繋がり、特に、地震被害経験の少ない地域に対しても、重要であると考えられる。

本研究では、福岡周辺に被害や影響を与えた地震について文献調査し、その概要について整理した。福岡は歴史的にみても地震が少ない地域であるが、結果的に史上最も被害が大きかった地震は2005年福岡県北西沖の地震(M7.0)であったため、この地震の被害に関する痕跡の存在を調査した。この地震はわずか8年前の出来事であるが、この地震を経験した人々も時が経つにつれ、その時の経験を忘れつつあるのも実情である。そのときの記憶を残すためにも、地元の災害の歴史を伝え、防災へ繋げていくためにも、その一つの形として、調査結果を福岡市内の地震被害痕跡マップとしてまとめることも行った。具体的には、対象地震の被害に関する痕跡調査を行うこととし、その存在の有無を調査するために、震度分布も参考にし、博多湾沿岸地域の福岡市内を中心に、神社仏閣・公園の23カ所を調査した。今回踏査した箇所のうち、8カ所で当該地震の被害痕跡を確認でき、3カ所で痕跡は確認できなかったが、神主や宮司に話を聞くことができた。さらに、地震直後に発刊された地震被害写真集[西日本新聞社]の象徴的な5カ所の写真に注目し、現在の様子を撮影した写真と比較した。そして、こうして得られた地震被害に関する痕跡の存在を多くの人に伝える手段の一つとして、散策マップを作成した。これは、手作り感と親しみやすさを意識し、見て回れるマップ作りを目指した。こうした一連の内容は、まだ発展途中でもあるが、福岡地域の地震以外の災害史および災害跡を含め、さらなる情報の追加や表現方法の工夫によって、防災教育へのきっかけとして活用できると考えられる。

なお、この研究は、文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)(課題番号:23700957)の一部を活用いたしました。記して感謝いたします。

キーワード: 2005年福岡県北西沖の地震(M7.0), 地震被害跡, 散策マップ

Keywords: 2005 Fukuoka Earthquake, Trace of earthquake disaster, Walking map